

第21回総合特別区域評価・調査検討会 議事概要

日 時：平成25年8月7日（水）13:40～16:55

場 所：永田町合同庁舎1階 第一共用会議室

出席者：有識者 八田座長、安藤委員、北脇委員、竹林委員、深川委員、村上委員、宮城委員

- 国際戦略総合特区、地域活性化総合特区の対象申請案件について、総合特別区域評価・調査検討会委員によるヒアリングを行った。
- ヒアリングは、冒頭10分間又は15分間で申請者側から申請特区内容についての説明を行い、後半15分間又は20分間で委員との質疑応答を行った。

《地域活性化総合特区／グリーン・イノベーション分野、アジア拠点化・国際物流分野、まちづくり等分野》

○「周南コンビナート国際競争力基盤（電力・港湾）強化総合特区」（山口県周南市）に係る主な質疑

八田座長 何が規制緩和のポイントだとお考えか。

申請者 密接な関係がない会社であっても、地域の自家発電機を有効に使うため、電力を融通したいと考えている。

竹林委員 港湾計画について、18mのバースでは規格が小さすぎないか。また、施設建設のため、航路、泊地を改良する必要があると思うが予算的に大丈夫か。

申請者 港湾の改良等については、港湾管理者である山口県にて適切に対応をする。

北脇委員 電力を安く供給できることが、どのように中心市街地活性化につながるか、具体的に説明されたい。

申請者 企業、住居、商店等に対し電気料金に格差をつけ、ニーズを確かめながら、まちづくりを進めたいと考えている。

村上委員 石炭による発電では、時間的に変動する商店等への電力需要に対応できないのではないか。

申請者 小型の自家発電機と組み合わせて対応しようと考えている。

深川委員 近年、台湾の企業が国際的な競争力を増している。これに対し、エネルギー効率を上げ、一次輸送の効率を上げれば対抗できるとお考えか。

申請者 せめて諸外国の企業と同等のインフラを整備し、コスト縮減可能な体制を整えなければならないと考えている。

村上委員 港に停泊している船に、グリーンな電力を提供する計画はあるのか。

申請者 電力のグリーン化について、ソーダ事業で副生される水素の活用が考えられ、新たな水素需要にも十分対応できる余地があることを周辺企業に確認している。

《地域活性化総合特区／アジア拠点化・国際物流分野》

○「京都クロスメディア・コンテンツ産業特区（Creative KYOTO）」（京都府等）

八田座長 どういった規制緩和が必要だとお考えか。

申請者 留学生の業務時間制限を緩和することや所得税免税手続きの簡素化、著作権法の制限を緩和することなどが必要だと考えている。

申請者 (質問事項を記載したペーパーに基づいて申請者から回答。「ロケ地と観光の組合せは「札幌コンテンツ特区」と似ている。明確な差異は何か。」について、) 札幌コンテンツ特区はコンテンツによる観光振興を目的としているが、我々はコンテンツ産業自体の成長を目的としている。

申請者 (質問事項を記載したペーパーに基づいて申請者から回答。「現行の約2倍に設定した経済効果の目標をどのようにして達成する考えか。」について、) 現在のコンテンツ産業の成長率に数%上乗せできれば目標値は達成できる。特区に指定されることで達成可能だと考えている。

申請者 (質問事項を記載したペーパーに基づいて申請者から回答。「既指定の京都市地域活性化総合特区と地域の重複があるが、内容面でどのような相違があるか。」について、) 既指定の総合特区は観光面を重視するものだが、今回申請する特区はコンテンツ産業の成長とこれを支える人材の育成を重視するものである。

申請者 (質問事項を記載したペーパーに基づいて申請者から回答。「申請書に記載のある「東京、札幌、福岡等との緊密な連携」とあるが、具体的にどのようなことを考えているか。」について、) 今回特区に指定されれば、札幌等と協力して映画の誘致等をしたいと考えている。

竹林委員 そもそも、京都はマンガ、アニメの作家等がいるのか。

申請者 京都には優良なアニメ制作企業があり、近年、ヒット作品を連発している。また、京都のいくつかの大学にはマンガ学科があり、現職のマンガ家が教授を務め、人材育成に注力している。

竹林委員 東京等で発展してきたマンガ文化とは異なる方法を検討されているように感じる。トキワ荘は自主的に集まってきた人により成り立つものではないのか。

申請者 逆に、そういった場を提供するという考えである。

村上委員 他所の成功例を京都に持ってこようとしているように見える。京都独自の事業スキームがなければ、東京の吸引力には勝てないのではないのか。

申請者 クロスメディアは京都くらいのサイズの街でこそ可能だと考えており、この強みを生かした事業展開により、京都が新しいコンテンツの発信拠点になれると考えている。

村上委員 十分な容量がなければ、クロスメディアは生まれないのでは。

申請者 能力のあるクリエイターがクロスオーバーする環境を整えることが重要だと考えている。

深川委員 できあがったコンテンツをどのように展開するお考えか。

申請者 外国企業が日本の中で組んでもいいと思う地域は多くはなく、その魅力ある地域の一つに京都がある。いろいろな企業と組んで、コンテンツを展開していきたいと考えている。

北脇委員 地域限定の総合特区に著作権法の規制緩和がなじむのか。著作権法の規制緩和の結果、できあがった成果はどこでも利用できるのでは。

申請者 まずは京都で著作権法の規制緩和を実現の上、新たなコンテンツ制作の成果を積み上げ、これをモデルケースとして全国での規制緩和に繋げていければと考えている。

《地域活性化総合特区／農林水産業分野、観光等分野》

○「千年の草原の継承と創造的活用総合特区」(熊本県阿蘇市等)

申請者 (質問事項を記載したペーパーに基づいて申請者から回答。「特区の取組の中心を担うのはどこか。」について、) 草原再生協議会の中の委員会が、中心を担うこととなる。

申請者 (質問事項を記載したペーパーに基づいて申請者から回答。「各自治体間で取組活動をまとめる仕組みはどのように考えているか。」について、) 阿蘇地域にある公益法人(デザインセンター)にて、特区のとりまとめをすることを考えている。

申請者 (質問事項を記載したペーパーに基づいて申請者から回答。「観光の観点で、達成したい目標は何か。」について、) 草原の景観を前面に出して、観光の目玉にしたいと考えている。2次的な効果としては、製品のブランド化。

申請者 (質問事項を記載したペーパーに基づいて申請者から回答。「新しい観光スタイルの創造と提案について、具体的にどのようなことを考えているか。」について、) 草原の中を地元の案内人が案内すること、地元の農産物、加工品をブランド化すること、地元の入湯税を草原の維持等にあてること、を考えている。また、3年前のCOP10においても話題になった阿蘇における生物多様性を目玉にしたと考えている。

申請者 (質問事項を記載したペーパーに基づいて申請者から回答。「草原案内システム構築事業について、どのように宣伝をする考えか。」について、) 協議会の事務局から広域的に発信することを考えている。

安藤委員 草原の維持のため、重要と思われる畜産振興について、どのようにお考えか。また、観光でどのように稼ぐお考えか。

申請者 阿蘇の草原の維持に畜産振興は不可欠であり、近年、あか牛の振興を県の施策に取り入れている。

竹林委員 久住高原は今回の申請の対象か。

申請者 エリアとしては、申請の対象ではない。

竹林委員 久住高原を対象外とすることがよくわからない。また、あか牛以外の畜産振興は検討していないのか。あか牛のみでは、心もとないと考えるが。

申請者 例えば、経済性の高い黒牛に視点を向けて、取り組んでいこうという考えはある。

深川委員 観光について、コンセプトは何か。わかりやすい、行ってみた価値があるというコンセプトがなければ、観光としてやっていけないのではないか。

申請者 希少植物の展示、草原の生い立ちが分かる観光を生物多様性とあわせてPRしたいと考えている。

宮城委員 民間の自律的な活動と連動することについて、どのようにお考えか。

申請者 近年、草原再生のための募金活動を行っており、それを畜産の振興、草原の環境学習、ボランティア活動の助成につなげていく予定である。

北脇委員 観光の戦略について、国内、国外等いろいろな客層があるが、どの層をターゲットにするお考えか。

申請者 まずは日本の方々を対象として、観光に取り組んでいくことが、国外からも選ばれる観光地になるものと考えている。

《国家戦略総合特区、地域活性化総合特区／ライフ・イノベーション分野》

○「群馬がん治療技術国際戦略総合特区」、「群馬がん治療技術地域活性化総合特区」(群馬県)

申請者 (質問事項を記載したペーパーに基づいて申請者から回答。「(国際戦略総合特区)重粒子線治療施設について、他の地域と比べた場合、群馬の優位性はどこにあるのか。」について、)他の地域と比べた場合、施設の規模をコンパクトにまとめられている点、建設費を抑えられている点で優位性があると考えている。また、総合病院に併設されている点においても、他にはない優位性を有している。

申請者 (質問事項を記載したペーパーに基づいて申請者から回答。「(国際戦略総合特区)重粒子線治療施設建設のコスト低減をどのような手法で解決する考えか。」について、)施設のコンパクト化、更なる研究、開発によりコスト縮減を図りたいと考えている。

申請者 (質問事項を記載したペーパーに基づいて申請者から回答。「(国際戦略総合特区)これまでに海外から患者を呼んだ実績はあるのか。また、今後の事業の持続可能性をどのように図る考えか。」について、)中国から患者を呼んだ実績がある。また、上海に事務所があり、そこからPRを積極的にしていきたいと考えている。

申請者 (質問事項を記載したペーパーに基づいて申請者から回答。「(国際戦略総合特区)重粒子線治療について、混合診療に関する規制緩和の提案をしない理由は。」について、)重粒子線施設設置の際から群馬県医師会と協力しながら取り組んできており、その意見を尊重した結果である。

申請者 (質問事項を記載したペーパーに基づいて申請者から回答。「(ライフ・イノベーション分野)特区に指定することにより、具体的にどのような効果があると考えているか。」について、)薬事法に関する規制緩和をすること、利子補給金や補助金により医療機器開発に関わる中小企業を支援すること等を想定している。

申請者 (質問事項を記載したペーパーに基づいて申請者から回答。「(ライフ・イノベーション分野)重粒子線治療について、病床の確保等、病院の運営をどのように考えているか。」について、)基本的に重粒子線治療には、必ずしも入院が必要ないというメリットがある。がんはいろいろな方法で治療できるが、院内各科で調整し、重粒子線治療に抗がん剤などをうまく組み合わせ、より良い体制を構築したいと考えている。

申請者 (質問事項を記載したペーパーに基づいて申請者から回答。「(ライフ・イノベーション分野)治療目的の医療観光をどのように実現させる考えか。」について、)群馬県には温泉もあり、地元のホテル、旅館等を斡旋するなど、全県をあげた医療観光に取り組んでいるところである。

村上委員 重粒子線治療施設について、後から開発されるものはより小型化が進み、より安価になることが予想されるが、その際に群馬の優位性が保たれるのか、お尋ねしたい。

申請者 今後、多少の改良があるにせよ、基本的には、我々の施設がベースとなって、展開されるものと考えている。

村上委員 群馬が国際戦略特区に指定される、それだけのブランド、ポテンシャルがあるのか、お尋ねしたい。

申請者 重粒子線治療施設の小型化、経済性のほか、大学があり治療に関する総合的な人材育成ができるという点が世界に類のない、ポテンシャルであると考えている。

村上委員 そのことは、治療を受ける患者にとっては関係がないのでは。

申請者 患者に直接は関係がないが、がんは重粒子線治療単体だけで治るものではない。免疫療法、抗がん剤等を総合的に活用できる総合病院併設型の重粒子線治療施設

設という点が、群馬の優位性だと考えている。

村上委員 群馬の国際的な優位性はどこにあるか。

申請者 重イオンマイクロサージェリーシステムやコンプトンカメラなどの先進的な研究開発を進めており、ハーバード大学、ハイデルベルグ大学とも研究協力協定を結んでいる。また、現在、重粒子線治療に関する技術は日本がトップであり、商業展開できる施設を有するのは日本だけである。

北脇委員 国際戦略総合特区と地域活性化総合特区を併願されているが、プロジェクトは一緒である。両方で採択されたいのか、あるいは、どちらかで採択されればよいのか。

申請者 我々としては、国際戦略総合特区の指定がふさわしいと考えている。

《地域活性化総合特区／ライフ・イノベーション分野》

○「地域の“ものづくり力”を活かした「滋賀健康創生」特区」(滋賀県)

申請者 (質問事項を記載したペーパーに基づいて申請者から回答。「採血で生活習慣病の予防に必要なデータが得られるのか。」について、) 採血により、生活習慣病の数値基準を満たす前のグレーゾーンに位置する予備群を把握し、その段階で生活習慣病になるのを抑えることが目的である。

申請者 (質問事項を記載したペーパーに基づいて申請者から回答。「特定健診受診率向上について、どのような事業計画を考えているか。」について、) 誰でも簡単に受けられる店頭検査、イベント等人が集まる場所に出向く出前検査、こちらから押しかける訪問検査を計画している。早期発見・早期治療による生活習慣病予防が本来の目的であり、このための“きっかけ”の提供として位置づけている。

申請者 (質問事項を記載したペーパーに基づいて申請者から回答。「県の東北部の公設試験研究施設の役割は何か。」について、) 滋賀県では血液検査装置以外にも健康目的の医療機器開発を進めており、東北部工業技術センターはこれらのプロジェクトに参画している。県の公設試験研究機関としても地域の健康づくりに関わる技術開発を進めていく計画である。

申請者 (質問事項を記載したペーパーに基づいて申請者から回答。「関西の国際戦略総合特区において、医療・健康のプロジェクトがあるが、何らかの連携策を考えているか。」について、) 関西には他に例のない、府県をまたぐ広域連合があり、関西の国際戦略総合特区が動き出す際にもここで議論した。今後も広域連合により連携を取りながら、取り組んでいきたいと考えている。

村上委員 健康のためには、歩きやすいまちづくりが第一だと考えるが、お考えは。

申請者 例えば守山市では、多くの市民が自主的に目標を定め、ウォーキングに取り組んでおり、ポイント制度やまちづくりを通して、今後もウォーキングを活性化していきたいと考えている。

村上委員 生活習慣病の予防について、血圧測定は考えていないのか。

申請者 生活習慣病の予防にあたり、血圧の測定も不可欠であると考えている。自宅やフィットネスクラブ等で血圧を測定し、結果を記録していく考えである。

安藤委員 採血による検査をどのように広めていくお考えか。薬局、イベント等による推進となると、地域コミュニティ組織が確立されている滋賀県らしさが失われてしまう。薬局等を中心としたまちづくりを考えているということなのか。

申請者 それぞれの地域コミュニティでは、公民館などで既に様々な健康推進の企画

を行っており、そういったところも重要な拠点であると認識している。滋賀県の取組は、新旧住民に対する実践モデルとなると考えている。

北脇委員 デスクトップ型血液検査装置は実現すれば非常に画期的だと考えるが、提案のあった臨床検査技師法の登録基準の緩和について、その要因を教えてください。

申請者 現行制度では、血液検査サービスを薬局等で継続的に行うには、医師又は臨床検査技師の配置が必要であるところを、講習を修了した保健師、薬剤師等の配置により行えるようにしたいという提案である。

以上